

黒毛和種産肉能力（間接法）検定成績

（種山牧野事務所）

1. 背景とねらい

県内黒毛和種の産肉能力等経済性の向上を図るため、黒毛和種牛群育種改良推進事業の中で産肉能力（間接法）検定を実施している。今回5頭の種雄牛について同検定が終了し、その成績を得たので改良指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

平成元年度黒毛和種間接検定成績

検定牛	正 福 (N= 8)	照 本 (N= 8)	茂 安 (N= 9)	谷 茅 (N= 7)	
所 有 者	遠野市農協	江刺市農協	江刺市農協	東磐井郡酪農協	
生 年 月 日	60. 6. 8	60. 4.15	61. 3.20	61. 3.18	
登 録 番 号	黒 11736	黒原1595	黒原1769	黒原1801	
血 統	父	谷本土井 (育 168)	茂 金 波 (育 7)	安谷土井 (育 85)	
	母の父	安幸土井 (育 169)	菊照土井 (育 100)	安美土井 (育 48)	
体 重 (kg)	開始時	246.8±12.9	270.9±20.2	259.9±19.9	243.8±28.5
	終了時	541.2±31.4	578.8±46.1	567.4±40.6	541.0±63.3
1日当り増体量 (kg)	0.81±0.08	0.85±0.09	0.90±0.08	0.82±0.13	
1KG増体TDN (kg)	6.70	6.55	6.79	6.42	
枝 肉 歩 留 (%)	63.8±1.0	63.9±0.9	62.9±1.2	61.8±2.1	
ロース芯断面積 (cm <sup>2</sup> )	43.3±3.0	47.0±5.6	47.4±4.3	43.3±2.4	
背部皮下脂肪厚 (cm)	1.4±0.3	1.7±0.5	1.6±0.3	1.6±0.4	
脂肪交雑・(BMS)	2.5±0.4	2.7±0.7	2.4±0.4	2.8±0.6	
枝 肉 格 付	A4-2 A5-6	A4-2 A5-6	A4-4 A5-5	A4-2 A5-5	

終了した4頭は資質系種雄牛で、1日当り増体量(0.81~0.90kg)と茂安を除き全国平均0.88kgを下まわった。

枝肉ではBMS(2.4~2.8)、皮下脂肪厚(1.4~1.7cm)、部分肉歩留(73.5~74.0%)で全国平均の2.1、2.0cm及び73.2%を上まわり屠肉性で優れた。

正福; 終了時体重541kg、1日当り増体量0.81kgを示し、増体能力にやや難がある。屠肉形質では、ロース芯面積(43cm<sup>2</sup>)はやや小さいが、皮下脂肪厚1.4cm)バラ厚(6.5cm)に優れ、部分肉歩留も(74.0%)高く、A5格付率(75%)も高い。

照本; 資質系種雄牛としては1日当り増体量0.85kgは高い値であり、ロース芯面積(47cm<sup>2</sup>)、皮下脂肪厚(1.7cm)、BMS(2.7)も優れたが、筋間脂肪厚(7.5cm)は劣る。

茂安; 1日当り増体量0.90kgは資質系種雄牛としては優れ、ロース芯面積(47cm<sup>2</sup>)皮下脂肪厚(1.6cm)、筋間脂肪厚(6.0cm)も良好な値を示し、部分肉歩留74.0%と高い。A5格付率(55.5%)は高く、量・質兼備の種雄牛である。

谷茅; 1日当り増体量(0.82kg)、枝肉歩留(61.8%)は劣るが、脂肪交雑は2.8を示し新格付では最高の値である。また、ロース芯面積43cm<sup>2</sup>はやや小さいが、皮下脂肪厚(1.6cm)がうすく、肉の締まり・きめも71%が5等級格付であった。

### 3. 指導上の留意事項

#### 1) 間接検定法

検定期間(364日)

正福; 元年6月2日~2年6月1日

照本; 元年6月9日~2年6月8日

茂安; 元年9月8日~2年9月7日

(検定場所…江刺種雄牛管理育成センター)

谷茅; 元年10月20日~2年10月19日

#### 飼料

濃厚飼料 間接検定飼料(TDN 73.0%, DCP 10.0%) 不断給餌

粗飼料 乾草飽食、イナワラ 濃厚飼料の10%混合

2) 検定終了時月齢は生後21~22ヵ月齢で、慣行肥育より出荷が数ヵ月早い。

### 4. 関連試験課題名

黒毛和種産肉能力検定(間接法)